



出会い

私たちはいままで、多くの人たちと出会ってきた。そしてこれからの人生で、もっともっと多くの人々との出会いがあることだろう。

この永い永い時間の流れの中で、人間の一生など、まばたきほどの瞬間だ。その瞬間に、同じ時代に生まれて出会うということは、不思議な縁があると思えない。そして、その人との出会いは、悲しみや切ない思いをもたらすこともあるだろうけれど、それよりもたくさんの喜びや感動をもたらすに違いない。

とても不思議な、人との「出会い」。このことを、より大切なこととしてとらえることで、いまあなたのまわりにいる人たちとのかかわり方を、深く考えてみよう。

まことに、人間の遭遇ほど、味なものはない。

折口信夫「憂々たり 車上の優人」

どんな人間でも、なにかのキッカケで知り合うまでは、未知の人である。そんなことは、あらためて言うまでもないことだが、未知の人が未知でなくなるその一線には、言うに言われぬ摩訶不思議なところがある。

吉行淳之介「未知の人」

どこで、どういう風に一しよになったものが、どこかの追分^{おび}でどういう風にわかれるという、その逢い別れのすがたを考えて、私はいつも、ある深い悲しみに打たれる。

久保田万太郎「わかる、とき」

思いやる心を



ひとりぼっちじゃないと
教えてくれたのは
あなたの瞳の中の
わたしだった
思いを伝え合い
認め合い
互いを支え合う
そんな人と人との
かかわりの中に
あたたかさがある